

# 授業の改善・充実（算数・数学）

## 1 単元をつくる

### 年間・単元全体を見通して、実態に合わせたねらいを設定する

小中学校9年間で習得させる学習内容（知識・技能）と身に付けさせたい力（思考力・判断力・表現力）、その系統性を踏まえ、確かな子どもも理解・教材理解の基に指導計画を作成し、確実な実施を図る。

### 具体的な子どもの姿をイメージして評価規準を設定する

単元の中で「しっかり教える」内容と「じっくり考えさせる」内容を明確にし、単元のねらいに合わせて、ねらいが達成された具体的な子どもの姿で評価規準を設定する。

## 2 授業をつくる

導入

### 子どもから問い合わせを引き出す

「おや?」「なぜ?」「どっち?」などの子どもの問い合わせを引き出し、「解決したい」と思う仕掛けを工夫する。

※ 子どもがつまずき、困り、悩むからこそ、子どもの解決しようとする気持ちが高まり、深く・広く思考するようになります。

### 意図的な机間指導を充実させる

- 子どもの学習状況の把握
- 誤答やつまずきの把握と活用
- 授業展開の考察及び修正  
など、意図的な机間指導を行う。

### 数学的な表現力を育成する

- 自分や友だちの考え方・根拠を書く活動や説明する活動を位置付け、数・式・図・表・グラフなどを用いて表現する。
- 表現が数学的であるかどうかを吟味し、より洗練された説明をみんなで作り上げる。

※ 授業中に子どもを認めていますか？子どもの思考や活動の様子、発言（つぶやき）をしっかりと見取り、価値付け、称賛することが大切です。

展開

### 子ども一人一人が学習を振り返り、

#### 学習内容の確実な定着を図る

- まとめの時間を確保するために、導入・展開時における学習活動を精選し、時間配分を工夫する。
- 適用問題を工夫する。  
(定着確認シートの活用を)

※ 今日は何を（内容）、どのように考え（思考過程）、そこから何を理解し（意味）、何を見いたしたか（価値）、子ども自身が実感を伴って理解できることが大切です。

終末

### 課題を明確にする

子どもの「問い合わせ」を価値付け、共に化し、「教師の教えたいこと」を「子どもの学びたいこと」に変える。

### 目的を明確にした「対話」を

#### コーディネートする

共通性・一般性・簡潔性・合理性など「何のために」「どんな内容を」交流させるのか、目的を明確に示す。

#### ～関わりの質を高める発問～

- ・予想 「続きを言えるかな」「式(図)の意味がわかるかな」
- ・再生 「もう一度説明できるかな」
- ・要約 「つまりどういうことかな」
- ・補助 「ヒントが言えるかな」
- ・推測 「どうしてこの考えが浮かんだのかな」
- ・発見 「よいところはどこかな」

### 評価の工夫・改善を図る

- 本時のねらいが達成された具体的な子どもの姿を明確にする。
- 子どもに学習内容が確実に身に付いたかをしっかりと見取り、個別指導や授業改善に生かす。  
(日々、教師自身が振り返りを)